

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームせせらぎの家	評価実施年月日	平成19年9月21日
評価実施構成員氏名	浜田久美子・岡本富久恵・中易テル子・浦本美紀・泉絵里子・大野洋子・岡山有代・小川恵美子・飯田由美子		
記録者氏名	浜田久美子	記録年月日	平成19年9月30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	町内会行事には可能な限り職員・利用者さんと参加し、「暮らし」の中での自然な雰囲気を楽しむ様にしている。 避難訓練に町内の方も参加していただいで行い、子供SOSをホームで受けている。	○ 参加される利用者さんがある程度決まってしまう状態なので、無理なく自然に興味を持って参加できる状態に努力したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	社内研修、ミーティングで理念についてスタッフ全員が学び改善方法などを話し合いながら進めている。	特に職場内研修の中で、理念が連携の基本である事を全員が周知している
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	月1回「せせらぎ便り」を町内会にも回覧していただいている。行事への参加、地域の保育園との交流。子供SOSへの登録などを含め地域に浸透している。	○ ホーム主体のイベント等があれば 更に理解・浸透が深まると思う。それをどのように行動するのか検討中である。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常の挨拶など気軽に交わせるなごやかな雰囲気がある。野菜・花を分けて頂いたり、歌のボランティアへの参加。ホーム周りの草刈りを手助けして下さる方もいる。	助け合いの気持ちを忘れずに、同じ地域に暮らす住民として気軽に日常のお付き合いが出来る様に心掛けている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の総会・大掃除・草刈り。保育園の運動会観覧など可能な限り参加している。24時間スタッフが居る事で「子供SOS」にも登録している。	大人だけでなく、子供達にも気軽に入り出来る環境を作れば「子供SOS」も活用されやすくなると思われる。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	新しい町内会で高齢者の方々は少ない状態。「やませみの会」にてホームに相談窓口がある事を理解して頂いている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を受ける事により、自分達では気付かない事も知る事が出来、改善に取り組む事が出来る。	○ 不足な部分に気が付いたら改善する。短・中・長期等に分けたり担当者を決め、具体的に改善に向けて進める事が必要。
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会・支援センター・御家族・利用者さんの意見を参考にさせて頂き、サービス向上に努めている。(運営推進会議)	利用者の御家族の交流。アンケート等で希望・要望を気軽に出せる様な環境作り。 2か月に1回、運営推進会議を開催している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	主に総括部長が中心になり情報収集されている。	新しい情報に乗り遅れないような柔軟な対応が出来る体制作りが必要。 社会福祉協議会、ボランティア団体の力を借りて、外部研修を主催した。(9月)
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	まだ色々な制度・システムに関して知識・スキルは不足していると思う。成年後見人制度についてはスタッフへの説明を行った。	現在社内研修が行われており、少しずつ学んでいる状態。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止委推進員会を発足し2か月に1回会議を開いている。職員もアンケート等で自分・周囲の状況を確認している。	拘束・虐待はあってはならない事との認識はあっても線引き等、考え合う場を持つ事により意識も強まると思う。
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の時には時間をかけ説明し納得をして頂いている。	○ 解約時は病院で死亡退去で説明はしているが、一部書類を頂いていない。これからはきちんと書類を残したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者さんに遠慮が見受けられ、不満・苦情の発言はしにくいと思われる。何かあるのでは？と思われる利用者さんに対してはスタッフが話を聞き改善している。	○	利用者さんが不満・不平を言いやすい環境が作れる様に努力したい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	御家族に対しては月1回「せせらぎ便り」をお渡しし行事の案内・報告をしている。預り金は個別管理し、月末に領収証をお渡しし残高確認をして頂いている。健康状態の異常時はすぐに連絡を取っている。	○	お便り内に一言コメント欄があり活用しているが、改善する事は無いのか？利用者の御家族の意見も伺ってみたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御意見箱を設置しているが、なかなか活用しにくいと思われる。不満・苦情のある御家族は管理者と話し合いを持ち、内容をスタッフが把握し納得して頂けるように改善している。	○	お便りをお渡しする際、アンケートに参加して頂くのはどうか？具体的な設問でYES・NO式と答えやすい工夫をして発言しやすい雰囲気を作る。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回せせらぎの家全体会議を開き、改善点について話し合い、ホームの向上に努めている。	○	話し合った決め事が時間が経てばうやむやになってしまう物もあり、責任担当者を明確にする必要があると思う。二つのグループホームの合同会議が設定され反映されるよう努力している最中である。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	通院付き添いの際、スタッフ確保の為に業務の変更し臨機応変に対応している。		通院介助等で人員が少なくなった際の対応が慌ただしくなってしまう為、その辺の対策・注意が必要。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	特別問題なく自然な型で行われている為利用者へのダメージは無い。		馴染みのスタッフが居なくなるという寂しさ、不安は他スタッフが上手くフォローしていく事。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	現在、活発に社内外研修が行われている。リーダー職はリーダー研修。他一般研修等、種別に応じてスキルアップほほ目指している。	9月より新入職員研修も発足した。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他グループホームの交流は出来ていない。	○ 千歳市内のグループホームとの交流を持ちたい。他のホームとの比較検討の中で、良い部分は積極的に取り組む柔軟な姿勢を持ちたい。現在運営者が中心となり介護業界との架け橋となる研修を構築中である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	定期的「せせらぎの家」「ほくとの家」合同で親睦会を開催している。	交流したことで様々な意見交換ができた。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	スキルアップの為に、社内外研修実施中。	社内研修をする事で、知識を深め今まで以上に努力したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に見学に来て頂き、本人・御家族から情報を得て不安のない様に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居に至るまでの家族の苦しみ大変さを十分理解し、受け止めた上で信頼関係を深める努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居して間もないことから、環境への配慮(人的・物的)を行い支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	まずは安心して頂く事が第一であり、他利用者の中に自然に溶け込める様にスタッフは配慮している。見ていて参加したいな・と思えるレクリエーション。面会に来られた御家族が居室で孤立する事無く楽しく生活しているのを見て安心されるように努力している。	○	ご本人が納得してサービスを開始されるにあたり、事前に体験システムを導入する等、接点を取ると安心感を持てるのではないか？
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	野菜の作り方、花の手入れ等、教えて頂きながら共通に楽しめる事を取り入れている。		趣味・興味は個人差があり難しいが、それぞれに合わせた共通の話題で共有できる楽しみを持つ。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員と家族の接点は足りないように思うが、誕生会等、御家族も出席され一緒に楽しんで頂ける場合もある。	○	御家族との接点をもう少し多くし、イベント等にも積極的に参加して頂ける体制作りを目指したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御家族からの意向は重視されるが、利用者の意向は内容によっては満足のいく型になっていない部分もあったと思う。		親子関係。キーパーソンと子供さんの関係も難しい部分も色々あるが、利用者に良い様に努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族によっては、親子、友人と交流を禁止される事例もある。		利用者さんが傷つく事が無いよう自然に過ごして頂けるように努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	高齢で難聴気味だと孤立しやすくなるが、スタッフが間に入り利用者が楽しい時間を過ごせる様に努めている。		利用者間の小さなトラブルを見逃す事の無い様に気配りしたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	死亡退去ばかりだが、御家族とは街で会っても気軽に声を掛け合っている。入院時は退去後も面会に行く様にしている。	○	退去された利用者の御家族にも暑中見舞い等の暖かみのある便りを送付しても良いのではないかな？
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御本人の意思を尊重したいと思いつつも、スタッフ人員の関係や家族側の意向に添わず、対応に苦慮する事もある。	○	集団生活である程度決められた流れで一日を過ごされているが、今後は御本人の希望に添えるようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族からの情報や日常の会話から、今までの生活習慣や生活環境を把握するようにしている。		御本人のペースで無理なく過ごせる様に心掛けたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日勤・夜勤と申し送りを通し、スタッフは利用者さんの生活パターンを把握している。		申し送りを含め、スタッフ間で情報の共有を密に行なって行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画作成時、モニタリングを行う事で利用者の思いを汲み取り、問題点は何かを探るようにしている。		スタッフがセンター方式を理解し、利用者を受け持ち介護計画を作成する方向である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	対応できない問題点が生じた場合、朝のミーティング等で話し合い。すみやかに解決している。	○	ケアマネとスタッフとの話し合いが不足していたように思われる。プランに対しては御家族の納得サインを頂いた方が良いと思われ、その時点で御家族側の意向も聞けるチャンスにもなる。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランを#ごとに記録し計画の見直しに生かしている。	○	ケース記録が介護計画に反映されるシステムを作っている最中である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	御家族が付添できない時にはスタッフが同行している。		通院同行になると、ホームのスタッフが2名体制になってしまうので十分な気配りが必要となる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事の時にはボランティアをお願いしたりし、利用者さん楽しんで頂いている。避難訓練、町内出前講座等、参加し学んでいる。		毎年1~2回は救急蘇生法を社内研修に取り入れる予定がある。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	介護支援専門員の交流が定期的に行われているが、社会資源の活用で、どう支援するのかまでには至っていない。	○	交流の場を活用し支援できる内容にしていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域生活支援センターの事務長と今後のホームの方向を話し合い、市内の活性化に協力する事を話し合った。	○	地域生活支援センターの活用法を検討中である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	その時の状況に応じて。医師、または看護師に相談しながら健康管理を行っている。毎週木曜日には往診して頂き、他病院を希望される方については、スタッフ、御家族が同行している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	未導入		現在は協力医の往診を受けているが、今後は専門医の受診も考えたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	確保し健康管理の支援をしている。		健康管理に付いては、更に記録にも残している。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	協力医療機関への入院はDr.看護師が往診で馴染みがあり、スタッフも出る限り面会するので、早くホームに帰りたいと思って頂ける様に努力している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ターミナルケアまでは設備の面で対応は出来ず。	○	ターミナルケアの専門性を高めるため、社内研修で提携医による講義を計画している
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者さん、御家族の希望を聞きホームで過ごしたいと申し出があれば出来る限りのケアをしたい。	○	同上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居に際し、出来るだけ今まで使われていた家具・鏡台等を持ってきて頂き、少しでも自宅に近い状態を作っている。		どんな状態でもスムーズな移動が出来る様に、センター方式を取り入れ記録ファイルを現在作成中。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報の取扱いには細心の注意を払っている。居室への入室の時には必ずノックをし、リネン交換等も必ず御本人の許可を得てから行っている。		プライバシーに関わる事について他言はしない様に今後も徹底する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	コミュニケーションを取る事により、御本人の思いを理解出来るように努めている。		今後も本人の意思を尊重したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ゆったりとした生活を送って頂きたいがADLの低下を防ぐ為に、1日の流れが希望通りになっていない部分がある。		その方のペースでゆったりと気持ちに余裕を持って生活して頂きたい。日常生活に個々の特性を活かした、生活の中に役割を持って過ごしていただく方法に取り組んだところである。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問理美容を利用しているが希望があれば他店への同行をしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューを一緒に考えたり、週間メニュー表を置き、食事の楽しみを作っている。もやしの芽取りはリハビリとして活用し、利用者さんに合った事で、手伝って頂いている。(下膳・茶碗拭き等)		盛り付け、器の準備を場面で手伝って頂いている所である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒・煙草を嗜む方はいない。飲み物は(お茶・コーヒー・ジュース・牛乳)と希望に添えるようにしている。おやつは市販の物・手作り、と、マンネリ化しないように工夫している。		行事の時には希望を取り入れた(お寿司多い)楽しい食事になる様 今後も工夫したい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自立している方がほとんどで、介護度5の方はオムツ使用。排泄時失敗した時等は、本人を傷つけないようにフォローをし、常に清潔を保てるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	自由に楽しんで頂きたいが、スタッフの人員の都合で曜日、時間は決めている。入浴剤等で楽しい入浴になるように工夫している。		御本人の希望による入浴が理想だが、安全面を考えるとなかなか難しいので、良い方法が無いかが検討中である。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼食後は昼寝を促し、休息を取って頂いている。夜間、不眠の方はDr.の指示で民剤を与薬し良眠して頂けるようにしている。居室の温度調節も心掛けている。		日中、眠いのを無理に起こすのではなく、あくまで御本人のペースに合わせてゆったりと安眠して頂ける様にしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	誕生会等。季節に合わせた行事を行い楽しんで頂いている。月に1度カレンダーを作ったり(書く)飾り物作り(作る)。外への散歩と工夫している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はホームで「預り金」として管理している。行事として買い物ツアー等で御自分で買物される機会もあり、一部の方は御自分で所持されていて通院外出の際に買物をされる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日はスタッフと町内を散歩したりしている。		職員の人数で対応出来ない事もあるが、出来る限り対応して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族との外出・外泊は自由。桜・紅葉の時期には2~3人でドライブしながらの見学を楽しまれた。買い物ツアーで外食、買物の企画もある。		御家族も一緒に参加できるイベントがあっても楽しめるのではないかな？
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	基本的に自由に連絡は取れる(スタッフ代行)家族に羅よっては、特定の身内との接触を断っている場合もあり、対応に苦慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来所された方にはお飲物を提供し、居室でゆっくりとお話過ぎて頂ける様に配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止推進委員会を設置し、定期的に職員にアンケート協力を依頼、それをもとに拘束しないケアが行えるように取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間を除き(玄関)鍵をかける事の無い様に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は常に一人は目配りをし、居室にいらっしゃる方は訪室する事で所在、安全を確認している。夜間は2時間ごとに巡回し、確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	その方に応じた対応をしているが、危険物と判断出来る物は、職員がお預かりし、使用される都度、お渡しし、使用中は側で見守りしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	常に一人はホーム全体の見守り、気配りをする勤務体制を取り、事故防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	避難訓練・救命救急の講習を受け、基本的なマニュアルを作り確認している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	御近所の方、町内会の方へと日頃より避難の協力は依頼している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人一人異なるリスクについて御家族に説明し、出来るだけ安全に過ごせる様に努めるがやむを得ない事もある事を説明し納得して頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	いつもと違う行動・バイタルの変化に注意し、訴えられない利用者さんの体調の変化を早期に発見、看護師又は管理者に報告している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師がセットした服薬確認は出来ている。		薬の目的、副作用を職員全員が理解するようにしたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分補給を促し、食事に繊維質を多く取り入れる様にしている。状況によっては下剤を服用して頂いている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後3回。口腔ケアを実施している。声掛けで出来る方。見守りで出来る方。その人に合わせて行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	2か月に1度、栄養士にカロリーチェックをして頂き、水分補給もその人に合わせて見守り声掛けし十分に摂取して頂いている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを作り、職員それぞれが気を付ける様にしている。手洗いをしっかり行う様に心掛けている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	なま板、ふきん等は毎日漂白消毒している。とうふ等、買い置きで日付が切れそうな物は無理して用意せず、前日に買うなど臨機応変に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>			
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>天気の良い日はテーブルをウッドデッキに出し、カフェ風にし、体操お茶を楽しむ事もある。ホームの外は、散歩時間帯は交通量も少なく、散歩するには安全。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ <input checked="" type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ <input checked="" type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ <input checked="" type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② <input checked="" type="radio"/> 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ <input checked="" type="radio"/> たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ①大いに増えている ②<input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての職員が ②<input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者が ②<input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族等が ②<input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

自分の親、もしくは自分が入っても良いと思えるグループホームになれる様
 入所者様と向き合い、素晴らしい自然が残る環境の中で ゆったりとした
 生活を送れるようにサポートしたいと、スタッフ全員で一致団結して取り組んでおります。